

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしぞらとよた1・ほしぞらとよた2			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日		～	2026年1月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年12月15日		～	2025年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の情報共有 ・利用者1人1人の個性を優先した支援を行っている。	・支援前、後にミーティングを実施。 共有ノートを作り、その日いない職員も情報が共有できるようになっている。 ・支援計画書に基づいて、児童の興味のある事や関心のあることを支援・活動に取り入れて行うよう心がけている。	・共有するだけでなく、どう支援していくかも共有し くかも具体的に検討し、具体的な内容を共有する。 ・職員間のミーティングなどを行い情報共有を密にしながら 児童の特徴や特性に合わせた支援を行っていく。
2	・利用者の特性、現在おかれている環境や状況に合わせた活動の提供。 ・利用者が安心して楽しく居れる居場所となっている。	お金の使い方の勉強。 (買い物、外食、外出先で家族にお土産を買う) パソコンやスマホの使い方について。 (必要な子には使うことよっての危険性についても指導) ほしぞらに到着してから、帰るまでの流れを視覚的にわかるようにしている。自分自身で動けるよう工夫してる。	個々に合わせた支援をすることで、あの子はやってもらえるけど、うちの子はやってもらえないと言ったことが生まれな いよう、その子の状況に応じて取り組んでいるということを 事前に伝え、理解していただく。 利用者1人1人の自立度が違うので、1人1人に合わせた支 援や声掛けをしていく。
3	相談や申し入れごとに対して、その都度対応している。	子育て、発達に対する相談や利用に関する相談に対して 面談や電話でのやりとりなど必要に応じて答えている。	相談しづらい保護者様もいらっしゃると思うので、送迎時な どにこころから働きかけ、なるべくタイムリーに対応できる 様にしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者交流、きょうだいどうしの交流機会が少ない。 ・利用者が増えてくると、送迎面・支援面などで 職員の人員が不足の可能性ある。	・児童発達支援の対象にあたる児童が少ない。 ・送迎時の安全確保と事業所内で安全・安心に過ごせる環境 の為に、職員の確保。	・児童発達支援の利用児のみの交流会を企画する。 ・2026年4月から職員（1名）増員予定。
2	地域との交流	受け入れてくれる場所があるかどうか 地域へ出た際、利用者を見失わないようにするためにスタッフ 人数が必要。	外へ出る活動の際のスタッフ配置、また、見守るスタッフの 意識の向上。
3	保護者同士の交流の機会や、家族会等の家族支援の開催が行わ れていない。	来年度は、保護者同志の交流の機会や、家族会等設けら れるよう検討したい。	交流会や家族会等の内容の計画を行っていく。